



エピソード

6

制限目安時間 20分

正解数 (合格ライン3問) / 5問

I-2 ゼウスと個性豊かな神々

ゼウスと正妻ヘラ

俗っぽい欲望や感情をむき出しにする神々たち。
ゼウスのヘラとの夫婦関係は、激しい愛憎劇を繰り返す。

浮気者ゼウス

オリュムポス神の最高神であるゼウスは、妻がありながら多くの女神や女性と関係を持つ、精力絶倫な浮気者として描かれています。なぜ、崇高なる世界の支配者が、これほどまでに俗っぽく描かれたのでしょうか。

その訳は、後世の権力者たちが、我こそはゼウスの末裔であると誇りたいがゆえに、自分たちにつながる血脈を勝手に創作したため、と考えられています。

そんな浮気者で鳴るゼウスが、正妻を迎えたのは、実の姉でもある結婚の女神ヘラ。しかし、このヘラ、ゼウスの浮気癖におおいに悩まされました。ヘラの心には、常にゼウスの浮気相手になった女性への激しい憎しみと嫉妬心が、燃え上がっていたのです。

ヘラの嫉妬

ゼウスがティタン神族の娘レトと関係を結び、子を宿した時、妻ヘラの嫉妬は頂点に達しました。ヘラは世界のあらゆる場所に、レトに出産させないよう命じたのです。

出産の場を失ったレトは、臨月になる大きなお腹を抱え、各地を転々としてきました。

ようやくレトがたどりついたのは、レトの

妹アステリアが化身した、オルテュギアという小さな浮島でした。浮島ならば海底から離れていて世界のどこにも属さないため、出産を禁じた場所には当てはまらなかったのです。

しかし陣痛が始まると、それを知ったヘラが、娘の出産の女神エイレイテュイアを引きとめました。エイレイテュイアがいなければ、出産はできません。そのため、レトは9日間も辛い陣痛に苦しむことになりました。

幸い他の女神の機転によって、エイレイテュイアが駆けつけ、レトは無事に出産。この時誕生したのが、のちの太陽神アポロンと、月の女神アルテミスです。

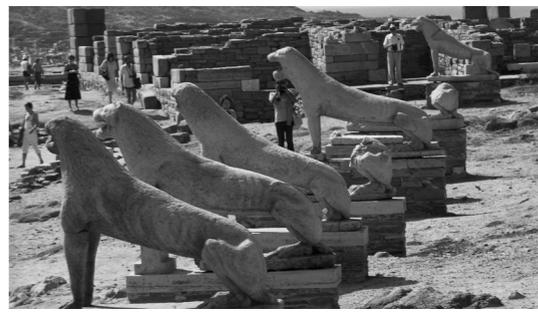
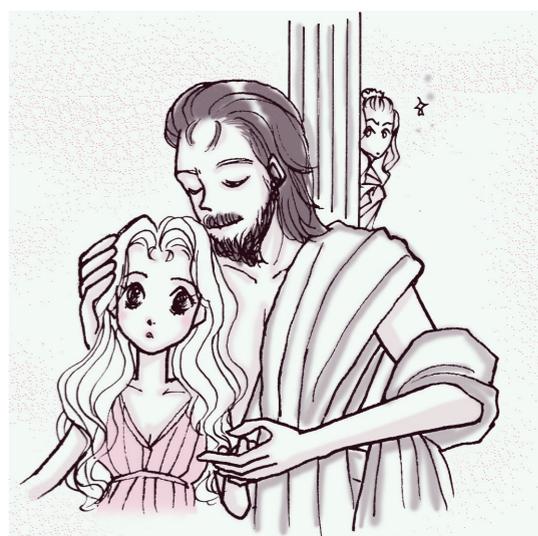
その後、浮島オルテュギアは、海底に固定された四本の柱で支えられ、デロス島(光輝く島)と呼ばれるようになりました。

雑学豆知識

●**牝牛になったイオ**
ヘラに仕える神官・イオは美しい紫色の瞳をした美女だった。その美貌に魅かれたゼウスは、彼女と密かに交わりを持った。そしてヘラの嫉妬を避けるためにイオを牝牛の姿に変えておいたが、案の定、浮気がバレてしまった。イオはヘラの放ったアブに追われて、狂乱のうちに世界をさまよいつつ、エジプトへたどりついた。その後、イオはエジプト神話の女神イシスになったとする説もある。

ゼウスが愛した主な女性たちとその子供たち

最初の妻・メティス (思慮の女神)	→	アテナ (知恵と戦いの女神)
2番目の妻・テミス (掟の女神)	→	ホラたち(季節の三女神) モイラたち(運命の三女神)
3番目の妻ヘラ (結婚の女神)	→	ヘパイストス(火と鍛冶の神) アレス(戦争の神)へべ、など
デメテル (農業と豊饒の女神)	→	ペルセポネ (冥界王ハデスの妻)
ムネモシュネ (記憶の女神)	→	ムサたち (詩歌を司る九女神)
エウリュノメ (水の女神)	→	カリスタたち (美と優雅の三女神)
レト (ティタン神族)	→	アポロン(太陽神) アルテミス(狩猟と弓術の女神)
マイア (アトラスの娘)	→	ヘルメス (商人、盗賊、旅人の神)
セメレ (デバイ王女)	→	ディオニソス (ぶどう酒と演劇の神)
ダナエ (アルゴス王女)	→	ペルセウス
アルクメネ (ペルセウスの孫)	→	ヘラクレス



デロス島のアポロン神域のライオン像

問題1 ゼウスと正妻ヘラは、もともとどんな関係でしょう？

- A 父と娘
- B 姉と弟
- C いとこ同士

1

問題2 レトに助けの手を差し伸べた妹は、何という名前でしょう？

- A エイレイテュイア
- B オルテュギア
- C アステリア

2

問題3 次の文章に、あてはまる言葉を選んでください。

ゼウスとレトの子供として、太陽神 ③ と月の女神 ④ が誕生しました。
レトが出産した浮島は、 ⑤ 島(光輝く島)と呼ばれるようになりました。

- A アレス
- B アルテミス
- C アポロン
- D デロス

3 4 5